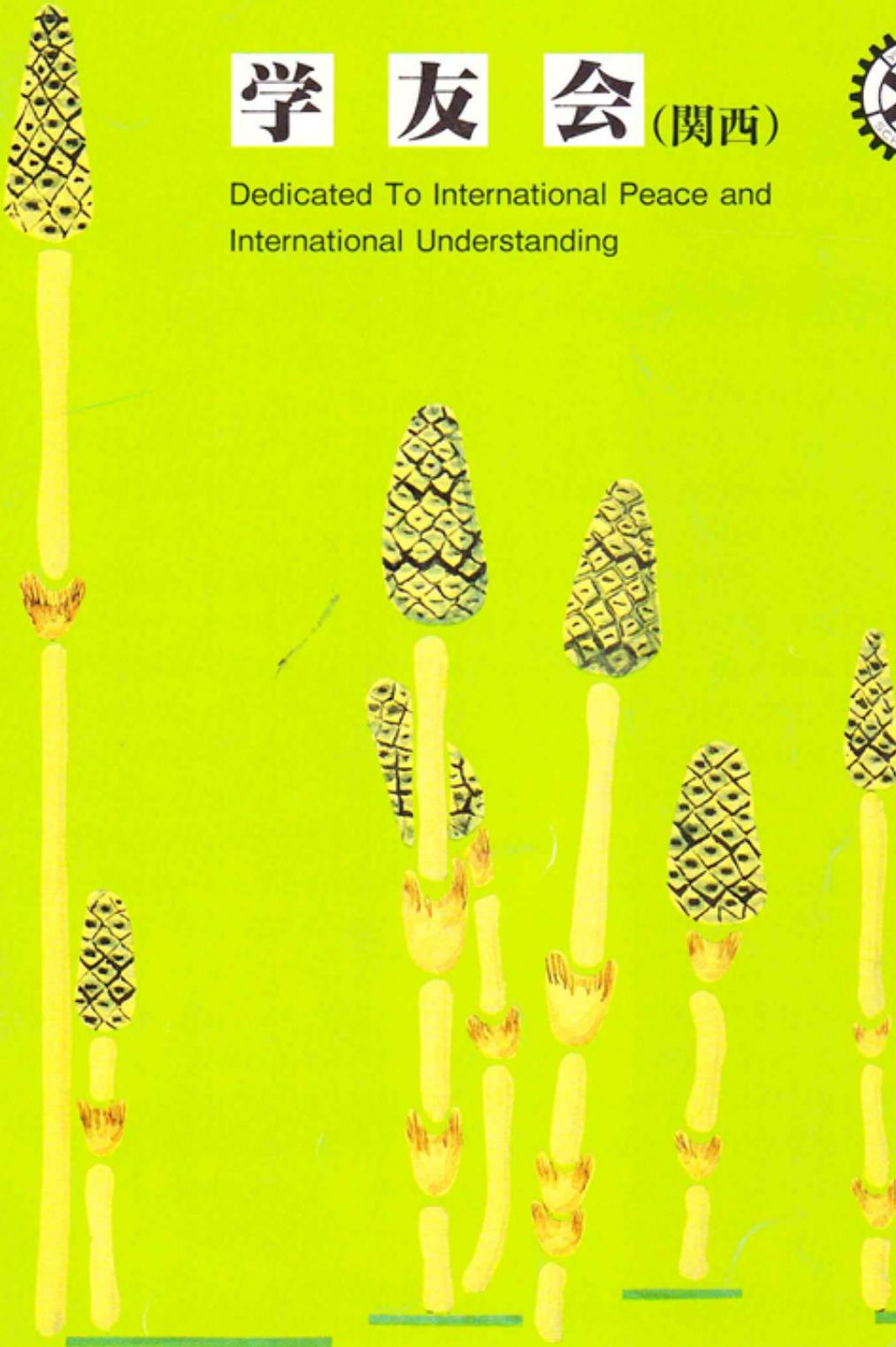


学 友 会 (関西)



1988

Dedicated To International Peace and
International Understanding



YO NE YA MA

3

目 次

巻 頭 言	重 光 世 洋	1
学友会（関西）に期待する	伊 瀬 芳 吉	3
米山記念奨学制度の主な改正点について	増 田 房 二	4
米山学友会に期待すること	種 田 憲 次	5
郷に入れば郷に従へ	平 岡 正 己	6
私の推薦する史蹟名所	細 田 精 一	7
愛する「六甲」の山	古 田 敬 三	8
米山学友会創立3周年を記念して	神 木 董	9
世界中に好意と友情のかけ橋を	中 西 正 一	10
米山奨学生と私	武 尾 敬之助	11
アメリカ留学雑感	林 錫 璋	12
米山奨学生としての2年間	許 紫 芬	13
自国文化から見た日本文化	ディリーブ・チャンドララール	14
食生とは — 中国と日本はここが違う	呉 淑 芬	15
留 学	裴 貞 烈	16
留学2年目に思うこと	朴 京 姫	17
私が考える国際親善	黄 承 国	18
下 町 の 長 屋	金 美 貞	19
私 と 日 本	千 文 奉	20
日本における留学生の現状	魏 栢 良	21
米山奨学生学友会（関西）の1988年度活動報告		23
米山奨学生学友会（関西）総会パーティ報告	重 光 世 洋	24
米山奨学生学友会（関西）役員名簿		28
米山奨学会（関西）各大学の代表		29
編 集 後 記		30

表紙について：「つくし」米山OBの 姜 淑子さん
 （京都市立芸大大学院修了 美術専攻 現在フランス
 留学中）の作品です。
 挿し絵について：姜京希さんは韓国の美大で西洋画
 を専攻されました。大阪府大留学生劉 泰均氏の
 ご夫人で今回特にご協力をいただきました。



巻 頭 言



米山奨学生学友会（関西）

会長 重 光 世 洋

米山奨学生学友会（関西）が初声をあげてから早や3年目を迎えました。この間、学友OBを中心に色々の国際理解や親睦活動などの行事をこなしてきました。これは偏に米山記念奨学会、ロータリー関係者並びに学友のみなさんの力強いご支援とご協力の賜物であることと感謝いたしております。学友会の設立趣旨にもとづいた活動を模索しながら、どうかそれに合致しようと懸命にそのステップを一步一步上に向かって登りつつあるように思えます。

会員相互の親睦はまず参加から始めなければならないことは周知の通りであり、これにより国際理解の鍵が与えられ、世界平和の門扉が開かれることは言うまでもありません。これを端的に暗示してくれたのは、つい先程世界がソウルの聖火に惜しみない拍手を送った五輪の開幕と閉会式ではないでしょうか。30億とも言われる人々が見守った開会式は、まさに一編の詩のごとく正確なリズムと流れで進行し、無数な色とりどりの風船が空に舞い上がり、また空からは七十数人のスカイダイバーが舞い降りてきた。これはまさにオリンピックの精神を象徴したものではないでしょうか。また、閉会式のあの和やかな雰囲気の中で共に再会の日を約束し、また会場中央に架けられたあのS字の形した“天の橋”（世界平和への架け橋）を共に渡たろうと約束を呼び掛けたのも印象的でした。

日本はいま、世界で一番の金持ち国となっている。ややもすればわれわれは物質文明に身も心も奪われてしまっている。心の文化や伝統はそれぞれの国の歴史により重みが異なるようではあるが、人類の歴史を基準とすれば皆同じではないでしょうか。なぜならば緑の存在するこの唯一の地球船には人類という動物はただ1種しか存在していないはずではないか。

前号でも述べたように人間同士がかってに決めつけた異質性と同質性の混在する地球において、その違いをとことんまで解き明かしていくとといったアイデンティティを見い出すことこそが我々に与えられたささやかな第一歩の作業ではないでしょうか。

このためには、この異質性と同質性に対する真の理解が必要だと考える。似たもの同士でしときとして誤解を生み、波乱含みになる。似ていてわかり合えると思っているだけに、

微妙な差異から生ずる行き違いが大事になることがあるのに、まして異質のものが一緒になると收拾がつく筈がない。そうであるならば共存共栄の原則を再確認すると共に人類のあるべき大きな目標を定めて、そのもとで共に努力して生き、運営していかなければならないと思います。これにはまず、自ら積極的に交わる機会を作り、相手の考えに耳を傾ける努力から始めなければならないと思います。これにはそれぞれに介在する問題を提起し、理解を求める努力が欠かせないものです。時には、美辞儀礼も必要ではあるが、裸にした真の心と心の触れ合いを辞さないのが理解への大原則ではないでしょうか。

このような視点から、本号は、とくに私共が今までに感じた事柄や留學生活、またそれぞれの国の風俗習慣等をテーマに思いのままに書きおろしたのもをもって編集を試みたものである。この意を汲み取っていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、ご寄稿賜りました諸先生、会員の皆様、そしてこのすばらしい会報の編集印刷にご協力ご援助を賜りましたアベ印刷株式会社社長安部正利（大阪難波RC会員）に対し、心より厚く御礼申し上げます。 （大阪産業大学工学部教授）



学友会（関西）に期待する

国際ロータリー第266地区

バストガバナー 伊 瀬 芳 吉

最近の傾向として国際化とか情報化の時代とよく云われる。或人の説明によると国際的と云われる条件としては少く共次の2つの事項を充たす要ありとのことである。即ち第1は人道主義的連体の精神があるかどうか？ 第2は相手の歴史的なものを尊重する気持があるかどうか？ によって決まると喝破されていた。私も全く同感でこの2つの考え方を推し進めることが世界理解を深めることになると考えている一人である。日本のロータリークラブが米山奨学生制度の推進に協力している事は夫々相手国の若い人々と共に話し合い語り合う絶好のチャンスであると考え国際理解の一步踏み出していると解釈される。勿論米山奨学生の期間を終えて母国に帰えり母国の繁栄に結びつく夫々の分野で頑張っている方が多いと共に色々の事情から日本に滞在して研究を続けたり或いは実務に就いていられる奨学生出身者も多くなっている。縁あって結ばれた米山奨学生又はそのO.B.の方々とロータリアンの結びつきは特殊な絆によって結ばれた仲間同士であり、この関係をより密にする責任を負わされていると考えられる。機会ある毎に積極的に双方で相手を理解しあうよう努めるべきであり日本のロータリアンのみならず、一般の日本人或いは各国から来日されている奨学生仲間とも手をつないで広い意味の国際理解を深める事が望ましいと思う。嘗て私は東欧諸国を訪れ一般市民と話し合う機会に恵まれたがその印象として政治体制の違いはあっても市民の願いは全く世界同じであると云うことである。即ち平和な世界、幸福な家庭生活を希望しているように思える。数多い大衆が全世界を通じて話し合えば必ず世界平和への道は大きく前進すると思う。所謂魁より始めまで米山奨学生を中心とする吾々グループが先づ全世界に向って範を示し国際親善の実績を積み重ねる事こそ具体的な成果をあげることになると考えられる。改めて学友会の皆さんに努めて交流を広めお互いに理解しあえるよう積極的に取り組んで欲しいものと期待してやまない。学友会メンバーの一人一人が相互理解に精力的に行動され、実績を積み重ねて欲しいものと重ねて熱望してやまない次第である。

以 上

米山記念奨学金制度の主な改正点について

(財)ロータリー米山記念奨学会

常務理事 増田 房 二

会報第3号発行を機会に、今度改正されました米山奨学金制度の主な点を説明します。

来年度から、共産中国を始め、以前にロータリーが存在した国(20ヶ国)からの留学生にも、一定の限度内で奨学金を支給することになりました。現在の米山奨学金の中に、地区米山奨学金(Dis. Y)という制度があります。

これは大学学部生または大学院生を対象とするレギュラーの米山奨学生とは別に、ガバナーの裁量で、短大、高専、専修学校専門課程に在籍する留学生に対して、毎年各地区一律に1名宛割当てられております。これを次年度からDis Y-Aとして続けますが、もう一つDis Y-Bという制度を発足させます。このDis Y-Bは、以前にロータリーが存在した国から来日して、日本の大学院に在籍する留学生に奨学金を支給する新制度で、その数は各地区割当数の10%以内とし、且つ3年間を試行期間とします。

次にもう一つの試みとして、米山奨学生の国籍の多様化を図ることにしました。現在の米山奨学生の出身国を見ますと、全奨学生の499名のうち、韓国230名、台湾174名となっております、これだけで全体の80%を占めております。これは在日留学生の実態を反映したもので、それなりの意義がありますが、ここへ更に共産中国が加わりますと、全体から見て明らかにバランスを失し、奨学対象偏在の批判をまぬがれません。そこで、従来大学院生だけしか応募資格を認められていなかった地域例えば京阪神地区でも、次年度からは韓国、台湾以外の国籍を有する学生であれば、学部生でも応募できるように改正しました。東南アジア諸国の留学生の中には、学部生が比較的多いと考えられますので、これらの諸国の留学生へのチャンスが少しでも多くなることを期待しております。また選考試験にあたりまして、他の条件が同じであれば韓国、台湾以外の学生をなるべく優先的に考慮することによりまして、この面からも米山奨学生の国籍の多様化を計りたいと考えております。以上の二つが米山奨学会の次年度からの新方針であります。

最近5年間における国費留学生と外国政府派遣留学生の増え方はそれ程でもありませんが、私費留学生は激増しております、その数は留学生総数の80%を占めております。日本政府の積極的な留学生受入方針から見ても、今後における私費留学生の数は年とともに増大するものと予測されますので、日本最大の民間奨学団体として、米山奨学会の使命は極めて重く、その質においても、量においても一層の充実と発展が強く望まれております。

校友会の構成メンバーも益々多様化して、グローバル時代を迎えて参りますので、相互の信頼と親善によって世界平和に大きく貢献して頂くことを期待してやみません。

米山学友会に期待すること

(財)ロータリー米山記念奨学会

常務理事 種田 憲次

米山奨学会の目的は、留学生の方々にただ奨学金を支給することではなく、これによってロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することにあります。

米山奨学生として過ぎられた皆さんは、ロータリアンの方々と接しられ話合われて「ロータリーの奉仕のころ」を会得されたでしょうか。ロータリーとは他人に対する思いやりと他人のために尽くすことです。

"Ideal of service" is thoughtfulness of and helpfulness to others

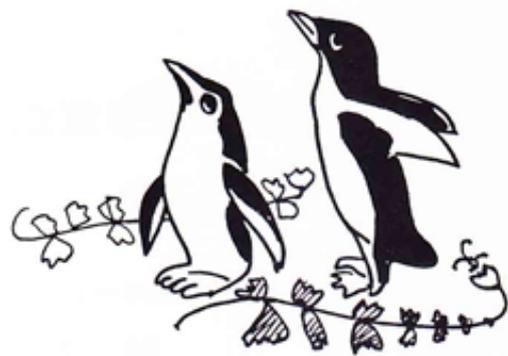
貴方の母国のことをロータリアンに理解させ、又貴方も日本についての理解をロータリアンによって深められ、そして親善に寄与することが出来たでしょうか。十分に出来たと思われる方も、まだまだ不十分だと感ぜられる方も多いと思います。

米山学友会に期待することは、米山奨学生のとときに会得された「ロータリーの奉仕のころ」を奨学期間終了後も継続し更に発展させるような推進力になって頂きたいことです。

皆さんのご健勝とご活躍を祈ります。



郷に入れば郷に従へ



国際ロータリー第264地区

ガバナー 平岡正己

米山学友会の皆さん如何お過しですか。平素はご無沙汰しておりますが、学友会の皆さんは日本留学の目的を踏まえ日夜努力をされていることと思います。

実は私も皆さん方の年令の時に米国に留学をした経験を持っています。若い時の海外の学校での修学、研究は学問の探究以外に異なった文化を知る、しかも身をもって体験できる貴重な機会です。文化の大きな要素の一つに言葉があります。専門分野の修得は勿論のことですが、日本に留学したからには日本語の習得にも留学目的の焦点をあわせて欲しいと思います。

外国に留学すれば自然にその国の言葉を習得できるように人々は考えます。言わば、衣料を染壺に入れば簡単に衣料は染まる様に考えられがちです。語学の修得が決してそんな簡単なものでないことは、あなた方が経験して一番よく知っていることと思います。先ず、郷に入れば郷に従え、で留学先の国に同化する努力を怠らないことです。そしてでき得る限り自国語を使わない努力をすること。外国で生活し、外国で学習することは、自国で行うと思っても為すことができない効果の上環境のもとで努力できるからです。日本の場合であれば、言わば日本語漬けになって勉強できることです。言い換えれば、それを克服して初めてそれだけの効果が上ると言えます。語学を修得するにはその裏付けになる努力が必要なのです。

私の所属する高石ロータリークラブでは毎年青少年交換学生をホストしていますが、毎週留学生の日本語のレポートを掲載しています。初めは英語とローマ字のレポートがローマ字だけになり、次にローマ字とひらがなが交り、ひらがなだけになり最後は漢字も入った立派な日本語になっています。勿論学校でもしっかり教えて貰っている賜ものだと思いますが、初めはレポートを書くのに大変な時間と労力を使うためにレポートを書きに来たのではないと、泣きごとを言います。しかし一年経って帰国する時には異口同音に皆ロータリークラブへのレポートが語学修得の為に大変役立ったと言います。

語学修得に悩んでいる人に、毎日日本語で日記をつけることお勧めします。郷に入れば郷に従へ

私の推薦する史蹟名所

米山記念奨学会評議員

国際ロータリー第265地区

ガバナー 細田 精一

私が住んでいる所は大津の錦織（ニシコオリ）二丁目で旧称は字御所の内といった。以前から風致地区で赤屋根、青屋根は許されず、建築物の高さも三階迄20mとなっており、錦織という町名は韓国か中国から来た渡来人達が機を織った所と言われ、最近発掘調査が行われた土地は皆家が建てられず、近江の宮跡として空地とされている。

ここから南へ皇子が丘、新羅の森、三井寺法明院、「園城寺」（天台宗寺門派本山）金堂、観音堂（西国第十四番札所）・長等山、更はずっと東へ電車で行くと紫式部の源氏物語で有名な石山寺（西国第十三番札所）があり、その前を琵琶湖から流れ出る瀬田川が悠々と流れている。私の家の西側の山は宇佐八幡宮があり、九百年前の建立で八幡太郎義家が祀ってあるお宮が宇佐山の上であり、北方は近江朝廷守護寺の崇福寺跡、観学堂跡があり、更に北には全国に三千の末社を持つ日吉神社（元官幣大社）は紅葉で有名である。又「比叡山」（海拔900m）には日本仏教の根拠地である「延暦寺」があり、更に峰々は「比良の暮雪」で有名な比良山へと続く。東は琵琶湖を臨み、付近は散歩に好適の場所で春夏秋冬実に風光明媚である。また私の家のすぐ北には昭和の唯一の官幣大社「近江神宮」があり、大化の改新をされた天智天皇がお祀りしてあり、造成された森も50年を経て立派になった。以上の場所は短い散歩、長い散歩に何れにもよく、春の桜、秋の紅葉何れの季節も美しい。

さざ波や 志賀の都は荒れにしを 昔ながらの 山桜かな

「ながら」は長等の山のかけ言葉である。山桜は大分老木となっているが、春の三井寺を白くカスミの様に色どるのも美しい。通称三井寺は観音堂の方で、園城寺金堂（本堂）は最近迄閉じられていたが、最近が開かれて参詣も出来るし、仏像も拝観出来、線香、お燈明もあげられる。この裏に光浄院があり、南の方に勸学院、唐院がある。山内は室戸台風以前（昭和の始め）はうっそうたる松の森林で昼なお暗かったが、度重なる台風の通過と伐採で最近では空も見え明るくなった。この北側、現在の大津市役所の裏に長等山前陵（弘文天皇陵）や、お不動さんがある。光浄院、観学院客殿は国宝で、慶長5年、6年の建造である。又観学院の床の間の後が切り取られ間道となっている。昭和48年の伝法×頂執行の際には結縁×頂を受けさせて頂いたが、三井寺には日本三不動の一つ黄不動がある。又、日本美術に貢献したフェノロサ・ビゲローの墓が法明院境内にある。この境内の散歩は松の香がして荘厳な気持ちにさせられ、夕方にはかの有名な三井の晩鐘が響き渡り、心が洗われるような気分になる。

石山寺も京阪電車石阪線蛭谷駅（石山終点）からやはり歩いて「つつじ」を見ながらお参りするのがよい。木曾義仲と俳聖芭蕉の墓で有名な義仲寺、その他国宝重要文化財は京都奈良に次ぐものがあり、名所旧蹟に事欠くことはない。是非一度御来津あれ。

愛する「六甲」の山

国際ロータリー第266地区

ガバナー 古田 敬 三

阪神間に生まれ人生の大半を阪神間で過ごして来た私にとって、「六甲山」は生涯忘れることの出来ない郷愁の山であり、名所である。

英国人アーサー・ヘルケス・グルームは1868年（明治元年）に来日、長崎を経て神戸で貿易会社を初めた。性来スポーツと自然を受したグルームは六甲山の美しさに魅せられ明治28年六甲山上に最初の別荘を建てた。山頂を住宅地として開発宣言し「六甲外人村」が出来たのであり、日本最初のゴルフ場「神戸ゴルフクラブ」も彼とその友人によって造られたものである。

標高は932メートル、神戸から30分、大阪から1時間、大都市からこんなに近くにこんな素晴らしいリゾートのあるところは、日本全国広しと雖も他に見当たらない。

六甲山上は高山植物の宝庫であり、3月半ばの白いアセビの花から初まりコブシ、ヤマザクラ、ツツジ、そして夏の六甲に見事に咲き誇る藍色のアジサイを以ってその美しさは頂点に達する。

六甲山上の展望台から眺める神戸湾「茅渚の海」百万ドルの眺望は将に一巾の絵であり、又植物園にはヨーロッパやヒマラヤなどの高山植物を含め夏の盛りには「エーデルワイス」等珍しい花が美しく咲き乱れている。そして、「六甲山牧場」では羊や牛や兎の遊ぶのどかな風景が見られる。

牧場から約40分西へ散策すると麻耶に着く。歴史を好む人には真言宗の古寺「×利天上寺」があり、7世紀天竺から飛来したといわれる伝説の道法仙が開いたと伝えられているが、後に弘法大師が唐から帰国する際釈迦の生母麻耶夫人像をこの寺に安置したことからこの山が麻耶山といわれることになったという。

阪神間に住む人々にとって之程親しみと懐かしさのある所はなく阪神間が日本でも有数の温暖な住宅地であるのも此の六甲山が北から吹いて来る「六甲おろし」を防いでくれているからである。

皆さん近い内に是非一度、六甲山へ。

「六甲礼讃論」を終わります。

米山学友会創立3周年を記念して

国際ロータリー第268地区

ガバナー 神 木 董

この度、米山学友会が創立3周年を迎えられ、ここに会報第3号が発刊されますこと、心からお喜び申し上げます。

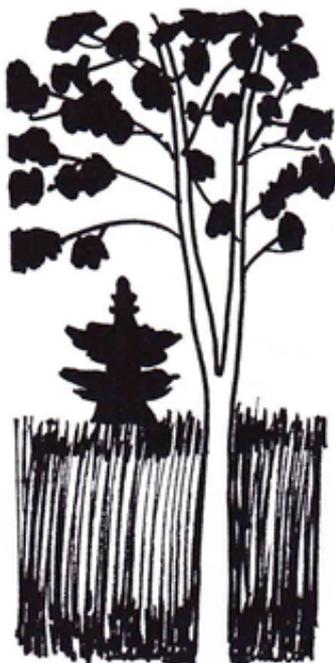
米山奨学会の誕生は、日本のロータリーの創設者である米山梅吉氏が、生前（1946年に逝去）私費を投じて東南アジアからの留学生のお世話をしておられたのを記念して作られました。

奨学金制度は、1954年より奨学生に支給することになったのが始まりで、今日のように発展して来ましたが、ご承知の通りであります。米山奨学会の使命は、ただ金銭的な援助を行うだけでなく文化（歴史、言語、生活習慣など）の違う日本での生活苦、孤独な思いで勉強する留学生を親身になってお世話することです。

最近、我々にはこの心が少し欠けているのでは無いだろうかと反省させられることがあります。

このように奨学生OBの方々により米山学友会が創られ、定期的に集会を持たれておりますことは、大へん素晴らしいことと思います。

今後とも、お互いの文化を尊び理解し合い意義のある学友会として更に発展されますことを心から祈念致します。



世界中に好意と友情のかけ橋を

国際ロータリー第266地区

バストガバナー 中西正二

1985～86年度第266地区大会で、「ロータリーの理想とする国際理解と親善に、より一層寄与するため、R.C.の所在しない国からの留学生に対しても、米山奨学金が支給できるよう要望します」旨の大会決議が採択されました。これに対し米山奨学会からは「誠意をもって前向きに検討します」との御回答をいただいております。

この会報で過般、拝見しました「古い橋を、こわさないで」との記事について更に御理解を深めていただくため申し述べます。

かつて向笠元R.I.会長は「人類は一つ」を強調されましたし、又、ケラー前R.I.会長もロータリーを、すべての国に拡げようと努力しています。ロータリアンは究極の目標として世界平和を願っており、そのためにはR.C.のない国とも理解と親善を深めてゆきたいのです。従って、奨学生も今後広くその対象を拡大し、その中から適当な方を公平に選ぶのが世界平和につながるのではないのでしょうか。対象を広くR.C.のない国からもとめていますので、中華人民共和国に限っておりませんからその点不公平はございません。

選考の結果、或は従来は国からの奨学生の数は減少するかも知れませんが、それはみんなのためになることであり、むしろ単に今までの数を減らさないでほしいと云うのは、余りにも、ロータリーで云っている「サービス、アバブ、セルフ」から遠ざかり、又公平でないのではないのでしょうか。

R.C.はR.I.組織の一員として、その指導を受けていますが、R.I.への貢献が目的でなく、ロータリーの目標達成が目的であります。

これからもロータリーのあるなしに拘らず、世界中の人達と仲よくしてゆくため、新しい橋をかけてゆきたいと思いますが、ロータリーの精神を云うならば、折角かけた古い橋も、どうか気持よく渡っていただきたいと念願致します。



米山奨学生と私

国際ロータリー第266地区

ガバナーエレクト 武尾 敬之助

私と米山奨学生との初めての出会いは9年前である。阪大医学部大学院研究生の載華さん（台湾）の世話クラブとして大阪西北RCが指名され、クラブの米山奨学委員長だった私が彼女のカウンセラーを引受けてからであった。立派な学生で帰国後も折にふれて手紙をくれ、又日本に再び来たときは先ず私に連絡をくれた。そして、私共夫妻と共に大阪の街で食事を楽しんだものだった。その頃、韓国からの米山奨学生が阪大工学部大学院に学ぶ李吉永君（千里RC）に手紙を出して私の家を来訪するようすすめた。彼は学校の帰りにやって来るので私の家で夕食を共にして話を弾ませたものだった。

1981年に私は当地区の米山奨学委員長を仰せつかったが多くの米山奨学生が私の家に遊びに来てくれた。その中で韓国の京都仏教大学で学んでいた李杏九君や阪大工学部の金成垠君は特に印象に残る人達だった。

数年前に私共夫妻が韓国旅行をした時のことである。釜山では上述の李杏九君に会い、彼のお寺の建立中の本堂を見せて貰い、その後市内の料理屋で夕食を共にした。彼は在日中に帰国したらロータリアンになるようにという私の言葉を実行して釜山海雲×RCの会員になっており私を喜ばせてくれた。大×では啓明大学の助教授になっている金成垠君が1日分の授業を繰り延べて私共の観光の案内役を引き受けてくれた。ソウルでは仁川専門大学学長の李吉永君を学長室に訪ねた。学内を見学した後ホテルで昼食を御馳走になり学長の車で38度線に近い文山迄ドライブした。

以上の如く私には米山奨学生の人達と係り深いものがある。かねてから在日の米山奨学生OBとの連絡の必要性を感じていた処関東では米山OBの会が出来たという情報が入った。私は在阪の米山OBの重光世洋君（現関西米山学友会々長）、魏栢良君（同幹事長）文燕友さん（同副会長）等と集いOB会の設立についての再三の会合を持った。そして今日の関西米山学友会が出来た。春秋の総会は現役の米山奨学生も混えた大勢の参加者に関係のロータリアンも加わって楽しい親睦の1日を過している。

今後はこの関西米山学友会が母体として夫々の母国で生活する学友との連絡が出来るような機能を持つようにして××国際親善を深める必要があるのではないと思われる。

アメリカ留学雑感



米山奨学生学友会（関西）

副会長 林 錫 璋
(D-264)

数年前、大学から海外研修の機会を与えられ、半年間ハーバード大学へ行って来た。そのとき、日本国籍を取得してから行ったので、旧名との同一性を証するための戸籍謄本や書類などを用意して行ったが、先方は口頭の説明だけで名変更をしてくれ、身分証明書（IDカード）も新名で発行してくれました。旧名のままでクレジットカードもとがめられることなく全国において使うことができました。日本だったら、しかるべき公的機関の証明がなければならぬであろう。私が初めて来日したとき、このような矛盾なこともあった。外人登録をするため区役所へ例の指紋押捺をし、母国の住所欄にはなんの証明もなく記入しました。しかし、その後住居表示に変更があったので、正直に届け出に行ったら、証明書を持って来いと言われ、戸惑いました。あまりにもぼかばかしいのでそのまま放っておきました。アメリカに比べ融通性が全然違うようでした。

アメリカでは、横断歩道の信号が赤であっても、車さえ通っていなければ、歩行者は横断する。警察もそれを見て容認するばかりでなく、時々早く通りなさいと指示さえするのである。スピード違反で捕まえたとき、子供が発熱して病院へ急行中だと弁明すれば、パトカーで病院まで誘導してくれる場合もあり、空港へ急行中で違反したと知れば、空港まで誘導してから違反切符をきるほどの柔軟性をもっている。

アメリカでは子供が遊びに来てケガをしたり、家の前の雪で滑ってケガをした場合、その家の主人に損害賠償責任がある。好意で他人を家に入れたから、家主の注意義務まで軽減されるものではないということです。数年前日本にも類似な事件があった。好意で近所の子供を見てやったが、不注意で池で溺れて死んだ。裁判所は損害賠償を命じた。これは当然の判決であったが、世論は「情けをアダで返すとは」と原告を攻撃し、原告は次から次への嫌がらせ電話や手紙にたえかねて、とうとう憲法が保障してくれた裁判の権利を放棄せざるをえなかった。法と情を混同した世論と言えよう。アメリカは子供の人権を大事にする国である。たとえ親であっても、無理心中で子供の権利を奪うことはできない。したがって、夫の浮気で妻が子供と無理心中しても、日本でしたら情状酌量の余地があるかもしれないが、アメリカでは立派な殺人罪となり陪審員の同情を得られなかった。

アメリカ人は法を厳守するが、それは硬直性の法ではなく、柔軟性のある生きた法である。アメリカは現在赤字大国に陥り、強盗殺人があらゆるところに発生しているが、アメリカ人はもはや純血のアメリカ人ではなく、全世界の人種から融合されたアメリカ人となっており、英知の集結された潜在力のある国だと強く印象づけられた。

（桃山学院大学経済学部）

米山奨学生としての2年間



米山奨学生学友会（関西）

幹事 許 紫 芬
(国際交流)

私は昭和58年4月から60年4月まで大阪東ロータリークラブでお世話になりました。この2年間、大阪東ロータリークラブの方々、又他クラブの方々にも接する機会を得ました。今日まで、沢山の御高配、御援助を頂きましたことを忘れることができません。謹んでお礼を申し上げます。

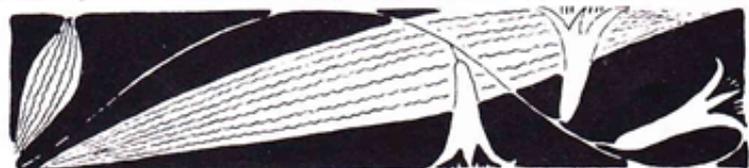
米山奨学生としての2年間、私の人生航路に輝しい1ページを与えて頂きました。他の留学生より幸せと思っているのは、第一に、精神的に安定感を得、又生活の面で、問題があれば相談するカウンセラーがいらっしゃることです。経済面で固定した奨学金を頂き、生活の保障があるので、全身全霊を勉学に集中することができます。

第二は、私のカウンセラーである京都大学の医学名誉教授稲本 晃先生がいつもお手紙を通じ、丁寧に御指導を賜りましたことです。私にいつも心から自分の子供の様に可愛がり、導いていただいていることに幸福感を感じております。

第三は、友情を頂くこと。日本へ留学にくる以前、日本に対する印象は、マスコミを通じて得た印象でした。それは政治・外交・あるいは特別な出来事でした。一般的国民の生活を認識することができたのは、日本へ来てからです。特に大阪東ロータリークラブの方々から度々見学の機会、家庭訪問の機会を与えて下さいました。琵琶湖めぐり、祇園祭、時代祭、さまざまな音楽会、大阪水上バス、枚方の菊人形、そして年末の家族会の御招待を受けました。又地区米山委員会から秋のリクリエーション大会を受けて、奈良の橿原神宮へ参拝、大発土廠への見学にまいりました。これらの見学を通じて、ロータリアンと接するうちに、彼らの仕事に対するゆきとどいた計画と誠実さ、真剣さに感動いたしました。私は人間としての日々の暮らし方を身を持って体験させて頂きました。ありがたさで一杯です。

第四は、社会的義務を感じた。ロータリアンと接する間、私は、ロータリー精神「クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕」数々の奉仕の精神に感動いたしました。ロータリーの方々には日本を戦後の廃墟から立ち上がらせ、又、経済大国にし、先進国アメリカと同等の立場に立たせたこの輝しい時代を作りだされた大功劳者でございます。ロータリーの方々の人生は誠実と奮斗の人生で、成功なされました豊かな成果を上げながら、又社会に、人類に対して愛の心を持って奉仕なされるお姿に敬服申し上げます。私もロータリーの精神を模範にして、今後の人生の歩みの目標として努力したいと思えます。

(大阪大学文学研究科)



自国文化から見た日本文化



米山奨学生学友会（関西）

幹 事 ディリープ・
(国際交流)

チャンドララール

日本に来て最初不思議に思ったことの一つは、日本人の行動に関するものであった。私たち外国人が日本語で話しかけても彼らは「わかりません」と言う。あるいは身ぶりでも「わかりません」と言い、逃げていきがちになる。これはただことばの問題だけではなく心の問題でもあると感じたことがある。結局心を開いて外（国）人と接触するのに慣れてないということであろう。

日がたつにつれてわかったのは、身内から離れると同じ日本人同士でも話をしにくいことがよくあるということである。バスや電車を待っている人々は知らない人に話しかけることがない。未知の人は「他人」である。ただの「人」も「他人」の意味で使う場合がある。場合によって人が赤の他人になる。「人を見たら泥棒と思え」ということわざはこういった考え方に基づいたものではないかと思う。

日本人のこのような行動は日本語にも影響を及ぼしている。日本語と私の母国語であるシンハラ語の呼称の比較研究を行ない、非常に対照的な結果を得た。シンハラ語には身内と外部の区別は日本語ほど多く見られない。シンハラ語の呼称は外部の人にも声をかけやすいような構造をもつ。その結果、スリランカ人は他人とすぐ近付きになることができる。日本語では知らない人に対する呼びかけのことばがないので、前提した第三者との関係で「奥さん」・「御主人」などと呼ぶことにしている。

このように考えて見ると、日本人の対人関係やコミュニケーションはうまくいかないのではないかとつくづく思ったことがある。日本に五年間留学していてやっと日本社会がわかるようになってきた。対人関係において距離を置くことが日本的コミュニケーションの基本的やり方である。その距離が土台となり、品位・威厳を保ち、望ましい人間関係を作り出すのに役に立つと言える。日本社会によく見られる「根回し」・「打ち合わせ」・「打ち上げ」・「ご苦労さん会」などの手段はその円滑なコミュニケーションの過程の諸手段である。

このような伝達行動はその背後にある文化のしくみと密接に結び付いている。そういう訳でスリランカ人の考え方・コミュニケーションのやり方に日本のやり方と違うところが多い。实例をあげれば、日本人と違ってスリランカ人は謝りや感謝をことばで表現する習慣がない。スリランカ社会には本来「ありがとう」・「すみません」・「申し訳ありません」・「ご苦労さま」・「お疲れさま」・「ごちそうさま」などのことばはない。

その代りにスムーズな人間関係を保っていくために、スリランカのような社会においては宗教が重大な役割を演じている。円滑なコミュニケーションを促進するために必要なさ

まざまな心くばりや精神的支援を与えているのは宗教である。宗教は大小の戒律によって人間の行動を方向づける。長い歴史と伝統がある宗教は特に多様性の中に共通の精神的基盤をつくりあげ、民衆を共同の精神で結び合わせる。日本文化とスリランカ文化の大きな違いはこの事実を根拠としている。

(神戸大学文化科学研究科)

食生とは一 中国と日本はここが違う



米山奨学生学友会 (関西)

幹事 吳 淑芬
(書記)

中国と日本の食生活とは、「米食体系」の同兄弟といえますが、料理体系など食生活は、大きく違ってきます。

例えば、中華料理は、味が一番重視されることに対し、日本料理とは料理体系の上に形作られ、素材の持ち味をそのまま生かす即ち、新鮮さで勝負をするのです。日本人は料理の味加減よりも、イキがいい、悪い、を問題にすると、中華料理に比べたら、すべての短時間であっさりと仕上げてしまいます。さまざまな素材を混ぜ合わせ長時間料理することによって、複雑な味を作り上げることをあまり試みなくて、素材の持ち味を損なわないように努力をするでしょう。

お酒の飲み方では、両国の間にもかなりの違いが見られます。日本では、相手にお酒を誘うときに、自分が飲まずに相手にお酒を注ぎ、相手に飲ませます。これは、心を込めて相手をもてなす意味を有すると聞きました。これに対して台湾では、相手にお酒を誘うときに必ず、自分も一緒に飲みます。これは、相手と一緒に楽しもうと思うからです。なお、台湾では、「乾杯」と言ったら、コップの酒を完全に全部飲むのが普通です。ビールでも強い酒でもこのように飲んでいきます。このように豪快というか、馬鹿らしいと言うか中国人は、日本人のようは二次会、三次会、四次会へときりなく飲んで行くことがどうしてもできないのです。日本の飲み方が大河ドラマだとすれば、中国では、お酒を飲むのはいつも一発勝負ですね。

つまり、両国ではどんな程度の食生活の違いがあっても、食事は人間を生存させるために欠かせない行動であります。人間としては、食べたいものを食べたいときに手料理で作り、食べることを楽しむために生きるのが日常生活における幸せではないかと、私は思います。

(神戸大学農学研究科)

留 学



米山奨学生学友会（関西）

大阪市立大学
代 表

襄 貞 烈

「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖と、また、かくのごとし」鎌倉時代の初めに作られた鴨長明の『方丈記』の冒頭部である。文学思想の無常論を話そうとするわけではないが、来日して4年目になる私には、いろんな方との出会いもあったし、日本に着いたばかりの時、親切に世話してくれた留学生の先輩たちは、母国に帰った方が多い。私たち留学生というのは、何年間か日本で自分の専攻の分野を学び、自分の国に帰る。河の流れのように、私たちは帰ってもまた新しい留学生たちが続けてやって来ては、それぞれの勉強をする。何年間かの留学期間、私たちには青春時代であり、誇らしい留学時代である。

4年近い間、いろんな体験の中で嬉しかった事は、大学院で勉強が出来た事と米山奨学生に選ばれた事である。奨学生による経済的な安定感、自分の日本観だけではなく、物の見方に余裕を与えてくれた。2年間の米山奨学生としての体験は、日本の社会や文化を深く知ることが出来、理解するように、愛するようにしてくれた。2人のカウンセラーの先生は、勉強や生活の面まで心配してくれるし、外のロータリーの会員も、月に1回の例会に出席する時、いつも暖かく迎えてくれるし、家庭にまで、招待してくれて、ご家族と楽しい時間を持つ事が出来た。去年の神戸周辺の見学旅行や1年1回の学会出席旅費で、遠方で開かれる学会に参加出来た事、忘れる事の出来ない思い出である。ロータリアンの皆さまに心から感謝する。

今の私たちの勉強と経験は、一生において一番大きな役割をすると思う。そのような面で日本留學生活は、大事であり、今の経験によりおのおのの物の見方や、人生観が成立していくと思う。

河の流れが海に至り、また雲になって、大地の生物に欠く事の出来ない雨になり、降ってくるように、私たちの今の留學生活が、将来に役に立ち、1人前の社会人になった時自分や自分の家族だけではなく、人間社会や人類のためになってほしいものだ。続けて来る留学生たちも、それぞれに楽しい思い出や大事な経験や貴重な体験が出来るようにお祈りする。

（大阪市立大学文学研究科）



留学2年目に思うこと



朴 京 姫

内陸地方で生れ育った私にとって、海はいつも憧れの対象であった。

私が留学生活を送っている神戸は、海に面し、いくつものきれいな公園を持っているオシャレな町である。港町神戸は出身地であるソウルより人口が約10分の1くらいのところで、街や電車、バスの中も比較的のんびりしているように思える。このすてきな町で暮らしはじめてもう1年半にもなる。私は現在、神戸大学の教育学研究科（社会科専攻）で日本史を勉強しているが、この辺で一度日本での生活をふりかえり、その感想を二、三書いてみたいと思う。

まずは、日本の大学における図書館について韓国のそれと比較してみたい。日本の大学図書館の雰囲気は韓国と随分違うように思える。韓国では、大学図書館は朝の開館の時から夜の閉館の時までいつも学生でいっぱいであり、かつ活気あふれている。そこは学生たちにとって、勉強部屋であり、居間であり、情報交換のサロンでもある。反面、私が観察した限りで、日本の大学図書館には多くの蔵書があり、その上とても快適な施設であるように思えるのにもかかわらず、学生による図書館の利用度は必ずしも高くないように見える。私にはとても不思議に思われる点であるが、オカゲで私は学校の図書館の座席を取るために朝早くから駆け足で急がなくてもよくなった。ついでに、講義室では前の方の座席に座るために急がなくてもよくなった。このような雰囲気のせい、いつも何かに追い回されがちだった私の生活もこの頃は多少余裕ができたと思う。しかし、このような余裕度を越えて怠惰になったらそれはちょっと困るであろう。

古代の歴史書（魏志東夷伝）には日本は「倭」と書かれている。この「倭」という字は、のちに小さくて粗末であるという意味も付加されるようになり、日本は全てにおいて細かすぎる趣がある国という印象を、人々に与えてきた。私も例外ではなかったが、来日して京都や奈良の様々な文化財などを見て、その認識を改めざるを得なかった。韓国は悲しい歴史の中で、重要文化財などが燃やされたり、あるいは異民族に奪われたりして現存するものが少ない。それに比べて日本に残っている文化財の規模、またその保存度が非常に優れているのには驚かされた。「百聞は一見に如かず」ということわざはこういう時にいうのであろう。数カ月前、史料収集のために県史編纂室（兵庫、滋賀）へ行ったことがあるが、数百年前の膨大な史料が一目瞭然に整理されているのを見て、やはり日本人は記録を大事にする民族であると思わざるを得なかった。

最近、日本では留学生の受け入れ及び国際交流を活発に推進している。教育、研究条件の整備と充実を謀ると同時に生活上の条件の向上、地域社会での交流活動の推進の一環と

して住宅問題、奨学金援助、文化交流などと幅広くその活動が行われている。その中で私たち留学生は様々な恩恵を受けているが、本来人間は利己的になりやすいもので、いつの間にか感謝の気持ちよりも別のものを要求しがちである。それが満たされないときに、人間は悲しみと怒りを持つようになるのではないかと思う。当然「与えられるべき」であるという、この「特別意識」をもつことこそ私たちが一番慎むべきであろう。そして、ただそういう恩恵を受けるだけに終わらず、いま与えられた機会を最大に活用してより多くのものを見、感じ、しっかり身につけるべきであると思う。そうしてこそ、微力ながらも国際親善と世界平和に少しでも役に立つのではないかと思うのである。

(神戸大学教育学研究科)



私が考える国際親善

米山奨学生学友会 (関西)

幹事 黄承國
(親睦)

日本に来てもう2年8ヶ月になる。その間、いろいろ感じたことがあったが、その中でも本国の生活ではあんまり考えなかったことがある。それは、今、日本で叫ばれている国際親善である。

日本の留学生活では毎日いろいろな人と出会う。特に、国際化されている日本では、日本人以外の国の人々との付き合いが多いわけで、世界がより狭くなったことを感じられる。世界の国の人々と付き合うためには、まず、お互いに異なる文化と風俗などを持つてゐることの承知の上で、お互いを理解しようとする必要がある。それによって、他文化との親しみを持つことができるだろう。この時点から国際親善が始まる。しかし、他文化に対しての理解心と親しみだけでは国際親善だとは言えない。これに加えなければならないのは、文化と文化との間においてのお互いの譲歩する心である。言い換れば、自分と仲良しの友達に対する態度のように、広い眼目でのFriendshipを持つことであろう。つまり、国際親善というのは、毎日の人々の出会いを大事にすることが必要になる。

さて、私が米山奨学生になってもう2年目である。私をロータリーに紹介してくれたあるロータリアンの言葉が思い浮べる。「人間はいつも感謝する気持ちを持つべきである」という言葉である。これは、どこに住んでいる人々にも適用される言葉である。ある意味で、それは、国際親善の一つの基本的な思想になる。

私はこの思想にしたがって、一人の国際人としての義務を果たすために、私のために応援してくれた人々に感謝の気持ちを表すために、いろいろな国の人々との付き合いを通じての国際親善を実行している。

われわれ、みんながそうすることによって国際親善への建前が成立し、世界平和にも長期的な眼目で役に立つと思うのである。

(大阪府立大学工学部経営工学科)

下町の長屋



米山奨学生学友会(関西)

大阪芸術大学代表 金 美 貞

今、1年間位ずっと日本の下町を歩いて写真を撮っています。雨の日も、くもり日も、暑い夏の日、また寒い日もさまざまな町の顔を見たいので下町を歩き、感じ、それを写真で表現できればと思っています。

丁度、この機会を得て、すこし感じたことを言語化してみたいです。

日本の下町を歩いて感じることは、まず、現代の日本に留学に来て、今の日本の姿をありのままに充分みることができるといことです。それは色んなことがアメリカ化されたり世界の経済国としてなりたってしまった現在、東洋的なことがだんだん少なくなってきた中で私は下町を歩くと、日ごろ感じとれなかった日本の昔の原点をみることができたような感じがします。それは日本の下町の長屋です。都会のマンションと違って人情があってみんなが親戚にみえます。長屋である日、おばあさんが植木の枯れ葉をとっているとき、隣の枯れ葉も一緒にとってあげるのをみて、日本も昔はみんなが人情と、もっと暖かい心を充分にお互い表現しながら生活していたことを感じます。

日本語の中で「おなじ屋根の下」、「おなじ釜のめしを食べる」という言葉の意味が、なるほどと自分なりに理解できます。ある日の夕方、私の一日の撮影が終るころ、長屋の路地裏にひとりの人間が歩いているうしろ姿をみて、なんともいえない親しさと東洋的、日本的なものを感じました。私は日本の下町を歩くのが好きです。食事のしたくをしていて、もししょうゆや砂糖がきれていても、すぐ隣に行って大きじいばいであれ、借りれる感じがする日本の長屋が、そして路地裏を歩くことが大好きです。

(大阪芸術大学 大学院)





私 と 日 本

米山学友会 千 文 奉

学年の始まり頃、あるいは学期途中に入ってくるいろいろな国からの新入生(?)たちの慌てる姿に接するたびに、自分の昔のことを思い出します。

日本語はほとんど知らずどこへ行っても胸がドキドキしたときの思い出が私の口元に笑いを浮かべさせるのです。

日本に来て約3~4ヶ月になった頃かやっとそれもほんの少し日本語を話せるようになった時のことです。日本の人に会うたびに「愛人がいますか」と聞いたら「えっ、そんな人なんかいません」といいながらすごく驚く姿を見ておかしいなと思い始めたのが、私の留学生活における最初のエピソードです。いま考えればとんでもない質問だが、わが国においては「恋人」のことを「愛人」って使われていますからである。

また、ある日、電車に乗った時のことですが、私の席の前に立っている人の手にしている荷物が重たそうな気がして持とうとする瞬間、びっくりした顔でかえって変に見つめられたことなどの、わが国においては常識となっていることが日本においてはそうではない。

この様な習慣の違いを体験しながら始まった留学生活ももう39ヶ月をすぎています。外国なんてみんなそうであろうけれども、わが国とはいろいろな面で異っています。よくいわれることですが、「近い国でありながら遠い国」のことが初めて理解できるようになったのは日本にきてからである。同じ東洋の文化圏にありながらもかなり異った文化、似ているようで全然似ていない人々、よく知っているようで全く知らなかった事などがようやく判るような気がします。

食事の時の食べ方、すなわち茶わんを手に持ちおはして食べる。銭湯で女性の方が堂々と出入りする。「タテマエとホンネ」、お世辞という行動様式が、わが国とのそれとの違いの中で、日本の社会での生活において始めには慣れ難い面もあったし、誤解をもすることもありました。

39ヶ月が過ぎた今は日本人に対する印象も相当変わっています。初めには冷たい人のように見えたけれどもホンネを持ってつき合ってきたら本当に暖かくやさしかったのです。さらに日本の社会に対しても理解できるようになったのです。ともかくお互いに理解し合うことは何よりも重要だと感じました。このことがあってこそ真の国際親善、ひきましては国際平和ができると思います。

わが国のオリンピックの成功や着実な経済成長によって、先進国の仲間入りも遠いことではないと思います。となりますと、世界におけるわが国の役割も大きくなるだろうし、したがって日本での留学生活の経験をよく生かして、その役割のほんの一部であろうが役に立ちたいと思います。

円高による生活費問題や寂しさやアルバイトの問題などを抱えているけれども、一つずつ乗り越えながら自分の専門知識ばかりでなく、日本の社会におけるいろんな面を習得してこれからの私の人生において大きな礎石として作っていきたいと思います。日本に留学して本当によかったと思われるように頑張らせていただきたいです。そして堺泉北ロータリーの方々にお礼を申し上げます。どうも有難うございます。

大阪府立大学 経済学部 修士課程 2 労務管理論



日本における留学生の現状

米山学友会幹事長 魏 栢 良

日本には88年4月現在、留学生は約二万名いる。

日本にいる留学生は大きく二つに分類することができる。公費留学生と私費留学生である。

公費留学生には日本の文部省の奨学金を受けている国費留学生と、留学生自身の国の奨学金を受けている政府留学生などがある。公費留学生は全留学生の二割程度である。したがって残りの八割は私費留学生となる。私費留学生は主にアジア諸国からの留学生で、中国、韓国、台湾などからの学生が70%を占めている。このようなアジアからの留学生は日本の高度な科学技術や、世界的な経済大国という地位を獲得せしめた日本の経営方法などを学ぶといったそれぞれの大望を抱いて来日するのである。

来日するのは手続上色々な難関がある。大学入学許可を得るためには、在外駐在の日本大使館、領事館、culture centerなどを訪問して日本の大学に関する情報を得なければならない。日本の大学の入学に関する外国人留学生の受け入れ体制はまちまちである。日本に知人がいる場合は入学手続き上、若干手間がなくなるが、外国から日本の大学への応募はほとんど不可能であるといえる。大学学部への入学を希望する者は日本にある日本語学校に入学し、六か月、一年から一年半就学生として勉強した後、入学試験を受けなければならない。大学院に入りたい者はまず研究生あるいは研修生として来日し、半年から一年ほど日本語及び専門の勉強をして、修士課程あるいは博士課程の試験に合格しなければならない。

このように苦勞して大学および大学院の糸口である日本語学校や研究生あるいは研修生としての入学許可を得られたとしてもすんなりと来日できない。最も難しいことは日本の法務省の visa を取得することである。パスポートとこの入学許可書のみでなく保証書が必要となる。保証人になる資格はかなり厳しく、現在日本に住んでいる日本人または定住外国人で、経済的社会的に認められた人が望まれる。外国人が日本人または定住外国

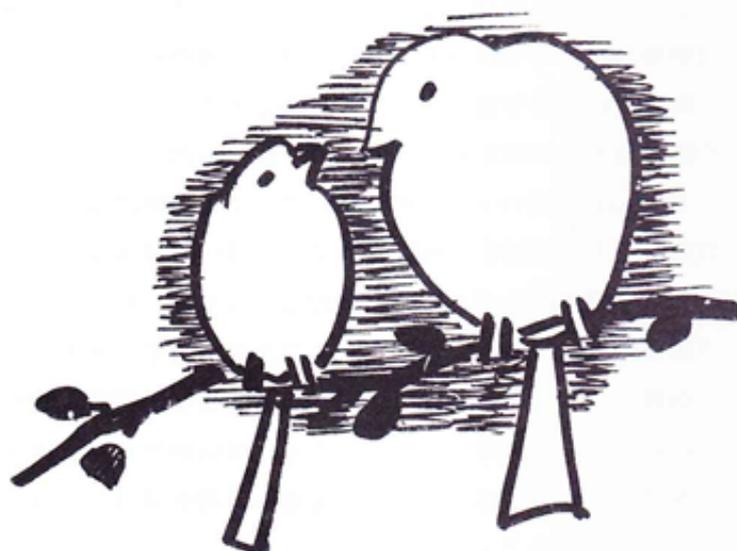
人をどのようにさがすことができるだろうか。知人の知人を通じ、またなんらかの縁を頼ってやっと保証人の条件にあう人を見つけても、保証人を断られる場合が七割ほどある。断る理由は保証の内容があまりにも重いからである。つまり日本での生活、学校関係、金銭関係また法律上などのすべての責任を負わなければならないのである。

上記のように難しい関門を通過して来日してみると、また新たに様々な問題が起こるのである。その中でも最も困難な問題が経済的な問題である。最近の円高の影響で生活は苦しく勉強が続けられないという状況にまでおいつめられる場合もある。

日本の奨学金制度はOECDの国々に比べると非常に乏しいという現状である。この米山奨学金は文部省奨学金に次ぐものであり、留学生にとってはのどから手がでるほど欲しいものである。日本での研究生活は高い授業料、高い物価、高い住宅となにもかも生活につきまとうものは高いものばかりである。これら衣、食、住を確保しながら、研究を続けていくためには最低一か月の米山奨学金ほどの金額が必要である。

米山奨学金はまさに砂漠の中のオアシスのようである。この奨学金は真の国際及び民際親善に役立っている。在日私費留学生は皆様の一層の厚意を心待ちにしている。

(大阪市立大学 法学研究科 研究員)



米山奨学生学友会(関西)の1988年度活動報告

1. 主な行事

行 事 米山奨学生学友会(関西) 88
年度総会

ホ ス ト 米山奨学生学友会(関西)

日 時 1988年5月29日(日)

場 所 ホテル南海

参加人員 119名

内容紹介 挨拶、各報告、役員の選出及び承認、各国の民謡、福引きなど。詳しいことは会長による本誌の総会パーティ報告参照。

ホ ス ト 米山奨学生学友会(関西)

日 時 1988年11月20日(日)

場 所 ホテル南海

参加人員 (予定)学友会会員60名

ロータリアン20名

ロータアクト20名

一般留学生20名

内容紹介 挨拶、五つのパネルディスカッション(国際結婚、各国の習慣、米山奨学金制度、生活様式、家族制度)各国の民謡と踊り、カラオケその他アトラクション。

行 事 1988~89年度全国統一 R
ACの日

ホ ス ト 枚方ロータアクトクラブ

後 援 枚方ロータリークラブ

日 時 1988年9月11日(日)

場 所 枚方サンパレス

参加人員 学友会から42名

内容紹介 挨拶、見学、人形園、ゲーム、韓国の紹介(スライド)、各国の民謡など。

2. その他

2カ月に1回役員会を開き、学友会の諸活動の企画、進行に関する協議をもった。10月の米山月間の時には多数の学友会会員が関西4地区のロータリークラブにおいて卓話を行ない、国際理解はもちろんのこと米山記念奨学会の資金集めにも貢献した。

3. 米山奨学生学友会(関西)の会報について

内容紹介

第2号 ロータリアンの祝辞、会員の自主テーマによる記事。

第3号 関西4地区(R.I.第264、265、266、268地区)のガバナー及び米山記念奨学会常任理事及び監事、266地区バスターガバナー及びガバナーノミニ諸先生方の祝辞。

会員によるテーマ「日本と私」に関する記事。

学友会幹事(親睦) 黄 承国〔堺R.C.〕

行 事 米山奨学生レクリエーション
見学会

ホ ス ト R.I.第266地区

日 時 1988年10月30日(日)

場 所 万博迎賓館

参加人員 学友会から40名

内容紹介 挨拶、四国阿波踊り、カラオケ、民族博物館及び日本庭園見学。

行 事 1988年度米山奨学生学友会
(関西)懇親会

米山奨学生学友会(関西)総会報告

米山奨学委員会委員 重光世洋
米山学友会(関西)会長

米山奨学生学友会(関西)は、皆様の暖いご支援によりまして創立3周年を迎えました。これを記念して、去る5月29日午前11時より1988年度の総会ならびに懇親パーティをホテル南海において、米山記念奨学会幹事伊瀬芳吉(PG)、同常任理事種田憲次(PG)・増田房二(D-265PG)、東条仁進(D-264PC)、ガバナーエレクト武尾敬之助、地区米山奨学委員長中川藤一、関西4地区(D-264、D-265、D-266、D-268)米山奨学生世話クラブの米山委員長またはカウンセラー28名のご臨席を得、学友会会員(元および現奨学生)ならびにその家族91名、総計119名の参加を募って盛大に開催されました。

まず、第1部の総会では学友会会長の挨拶、事業報告、会計監査等について報告がなされ、引き続いて議事に入り、次回会長ならびに幹事長の選出、副会長および幹事の承認、次年度の活動方針の発表、さらに米山記念奨学会関係者の皆様よりのご挨拶や力強いご支援の言葉を賜わり、総会の所定行事が円滑に行われた。

第2部のパーティでは木梨正夫元地区米山奨学委員長の乾杯の音頭により始まる、中川地区米山奨学委員長を始め、各地区ロータリアンよりお祝いの言葉をいただいた。余興では参加者全員になんらかの賞が貰える福引を歓声とため息の中で行い、引き続いて、韓国、台湾、インド、スリランカの学友諸君よりそれぞれのお国の民謡が披露

され、ロータリアンの皆様もこれには負けずと武尾ガバナーエレクトを先頭に、日本の歌のみならず、各国の歌を原語で披露され、学友のみなさんから満場一致で満点の賞賛を得ました。この中で名実ともに歌手テレサテン・ジュニアとも言われている台湾からの奨学生葉翠芬さん(奈良RC)の美声は歌手以上にすばらしいものであった。時間の過ぎ去ることを忘れるほど楽しい国際交流の一時を惜しみながら、一同輪になって“奉仕の理想”と“手に手つないで”をともに高らかに歌い、また会う日を約束して散会した。

このような地区を越えた国際交流の場は学友同士はもとよりロータリアンの“奉仕に結束・平和に献身”という実践への一歩ではないかという感を深くする思いでした。

最後に、奨学生のお世話をいただいているクラブの皆様に対して心より厚くお礼を申し上げ、今後とも学友会へのご支援を宣しくお願い申し上げます。





米山奨学会学友会1988年度総会

1988年5月29日(日)





米山奨学生学友会（関西）役員名簿

1988. 11.

- 会 長 重光 世洋 [大阪産業大学工学部：TEL0720-75-3001] [大 阪R.C.]
〒630 奈良市七条西町1-11-19 TEL 0742-44-5004
- 副会長
(D-265) 清河 雅孝 [京都産業大学法学部：TEL075-701-2151] [京 都 東R.C.]
〒607 京都市山科区御陵牛尾町72-7 TEL 075-594-2029
- (D-266) 文 燕友 [帝塚山短期大学] [大阪平野R.C.]
〒543 大阪市天王寺区上本町9-2-7-1214 TEL 06-772-1368
- (D-264) 林 錫璋 [桃山学院大学経済学部] [名古屋西R.C.]
〒593 堺市中町8-284-7 TEL 0722-62-4633
- (D-268) 荘園 福松 [税理士] [神 戸R.C.]
〒530 大阪市北区鶴野町4 コーポ梅田A-216 TEL 06-375-1070
- 幹事長 魏 栢良 [大阪市立大学法学研究科] [大阪平野R.C.]
〒567 大阪府茨木市新郡山1-12-302 TEL 0726-43-6158
- 幹 事
(庶 務) 戴 肇洋 [関西大学経済研究科] [大 東R.C.]
〒532 大阪市淀川区野中南2-3-10 TEL 06-305-5659
丸正クリーンハイツ506
- (親 睦) 黄 承国 [大阪府立大学工学研究科 TEL0722-52-1161] [堺 R.C.]
内2377
〒 堺市百舌鳥梅町4-804 TEL 0722-36-1204
- (学 術) 大塚 賢龍 [甲子園大学] [堺 東R.C.]
〒532 大阪市淀川区三津屋北1-6-20 TEL 06-301-3358
- (国際
支流) Dileep Chandralal [神戸大学文化科学研究科]
〒560 豊中市本町1-5-17 TEL 06-854-7434
- 許 紫芬 [大阪大学文学研究科]
〒550 大阪市西区江之子島1-8-21-411 TEL 06-445-1090
- (会 計) 韓 美賢 [大阪市立大学文学研究科] [大阪阿倍野R.C.]
〒558 大阪市住吉区苅田9-2-18 アビコビル313 TEL 06-698-3039
- (書 記) 呉 淑芬 [神戸大学農学研究科] [神戸須磨R.C.]
〒650 神戸市中央区山本通2-13-10 TEL 078-221-5160
- 会計監査 豊田 秋雄 [豊田歯科医院 TEL 06-308-5177] [大阪西南R.C.]
〒564 吹田市円山町15-28 TEL 06-330-3555

米山奨学会（関西）各大学の代表

- | | | |
|--------|--|-------------------------------------|
| 大阪芸術大学 | 金 美貞
〒579 東大阪市額田町5-1 | [阪南R.C.]
TEL 06-788-7517 |
| 大阪府立大学 | 千 文奉
〒593 堺市大野芝町23 大阪府立大学留学生宿舎16号 | [泉北R.C.]
TEL 0722-36-1204 |
| 大阪女子大学 | 王 儷珍
〒593 堺市大野芝町23 大阪府立大学留学生宿舎3号 | [岸和田R.C.]
TEL 0722-37-4958 |
| 京都大学 | 曹 貞植
〒606 京都市左京区田中西春菜町7-2
第10若竹荘 | [寝屋川R.C.]
TEL 075-751-2111 内5777 |
| 同志社大学 | 南 相錦
〒604 京都市中京区西の京上平町84 畑 様方 | [和歌山R.C.]
TEL 075-811-9526 |
| 奈良女子大学 | 李 子淵
〒606 京都市左京区山端壹町田町一番地 | [奈良大宮R.C.]
TEL 075-722-9364 |
| 奈良教育大学 | 何 玉翠
〒558 大阪市住吉区我孫子東2-10-25
栄マンション10号 | [奈良R.C.]
TEL 06-699-3971 |
| 大阪大学 | 許 天維
〒675-23 川西市小戸3-12-5 平賀方 | [箕面中央R.C.]
TEL 06-844-1151 内4090 |
| 大阪教育大学 | 鄭 有晶
〒557 大阪市西成区北津守3-4-16 豊マンション | [大阪阿倍野R.C.]
TEL 06-568-7479 |
| 関西大学 | 戴 肇洋
〒532 大阪市淀川区野中南2-3-10
丸正クリーンハイツ506 | [大東R.C.]
TEL 06-305-5659 |
| 神戸大学 | 呉 淑芬
〒650 神戸市中央区山本通2-13-10 | [神戸須磨R.C.]
TEL 078-221-5160 |
| 大阪市立大学 | 婁 貞烈
〒558 大阪市住吉区我孫子4-9-12
南野文化2階2号 | [大阪鶴見R.C.]
TEL 06-692-7910 |

編 集 後 記

第3号より会報らしい「米山学友会」誌に生まれ変わりました。経済的にはとてもこのように変身することは不可能だったのですが、学友会会員とロータリアンの皆様のご協力により立派な会報が発行されることになりました。編集を担当いたしました一人として心からお礼を申し上げる次第です。

内容につきましても前号とは一味違ったものを目指そうと、「日本と私」という統一テーマに絞り、会員の様々な日本との係わりや体験を語ってもらいました。また関西4地区のガバナーの諸先生方からそろって祝辞をいただきましたこと格別の喜びです。さらに表紙についてですがいままでの黒白からカラーへと脱却しました。姜 淑子さんによるこの「つくし」の絵は季節はずれではないのです。まさに生まれたばかりの私達の会誌にふさわしいと思われませんか。姜 京希さんからは可愛い挿し絵もいただきました。お二人にはこの紙面を通じてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後も会員からの生の声を中心に時代のニーズと国際理解、国際親善を目指したものにしたいと思っています。書きましょう。そして前に進みましょう。

幹事長 魏 栢 良

米山奨学生学友会（関西）会報 第三号

1988年11月20日 発行

発行者：米山奨学生学友会（関西）

〒630 奈良市七条西町1-11-19

（大阪産業大学工学部重光研究室）

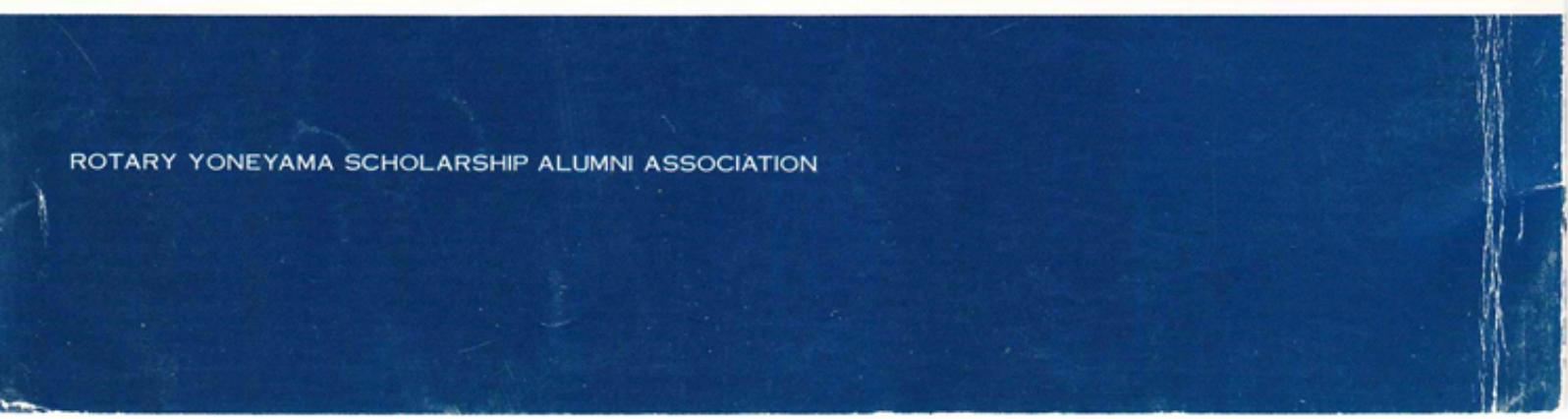
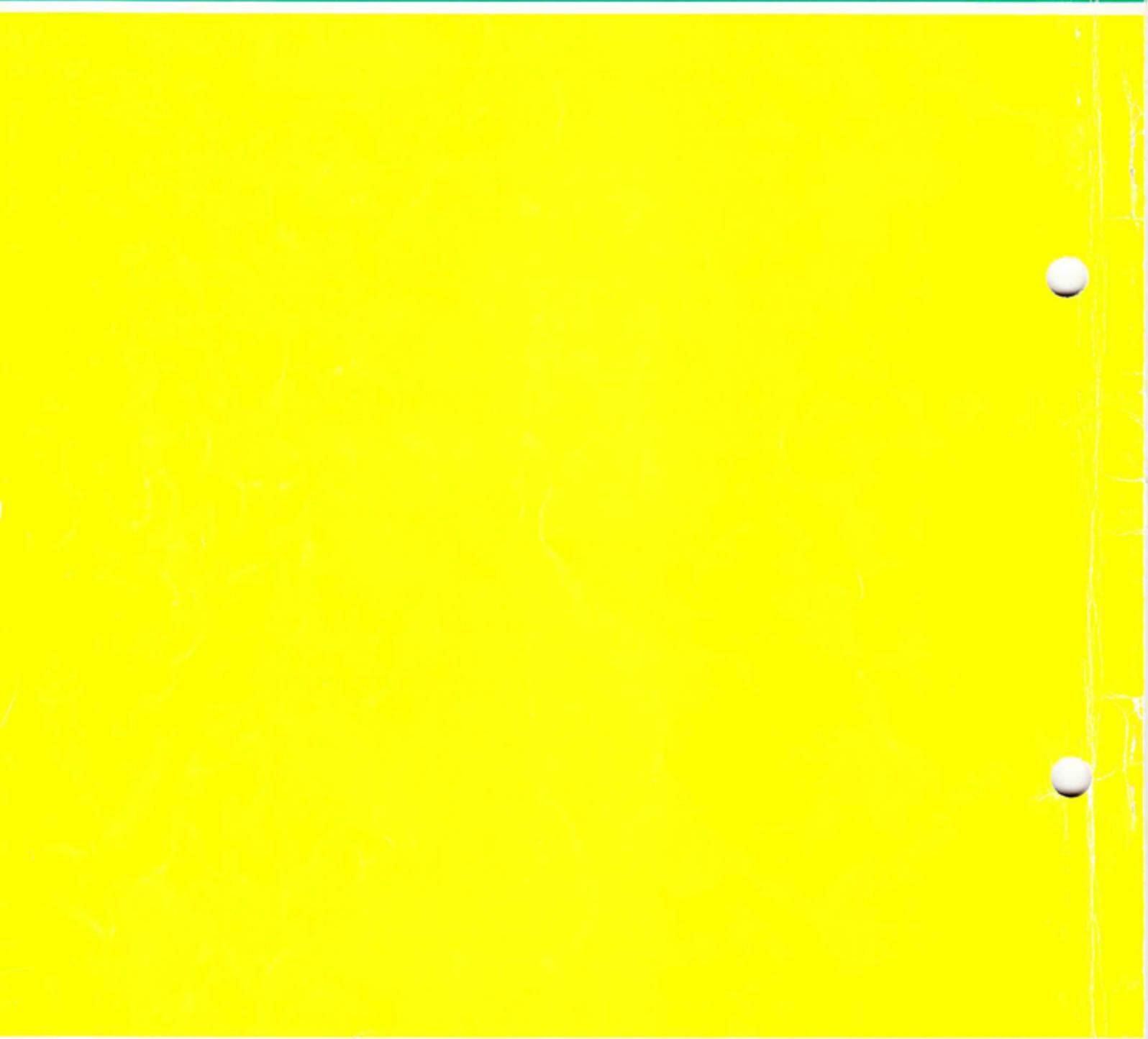
Tel 0720-75-3001

印刷所：アベ印刷株式会社

〒542 大阪市南区島之内1-13-19

Tel 06-281-1101

林 錫 璋



ROTARY YONEYAMA SCHOLARSHIP ALUMNI ASSOCIATION